

平成30年7月豪雨(西日本豪雨災害) ボランティアの記録(福知山市)

2018年7月15日(日)
川口 均(BCM防災研究所)

はじめに

1. 政府命名の「平成30年7月豪雨」、マスコミ等の通称「西日本豪雨」は広域豪雨災害をもたらした。
2. 原因は台風7号及び大雨。
3. 雨は西日本一帯に6月28日より7月8日頃まで降り続き、降水量のピークは7月5～7日であった。
4. 大雨特別警報は、福岡県、佐賀県、長崎県、岡山県、広島県、鳥取県、兵庫県、京都府、岐阜県、高知県、愛媛県に発令された。
5. 京都府福知山市では、人的被害は少なかったが、浸水被害が多く発生。
6. 福知山市災害ボランティアセンターが市内三段池公園内武道館に開設された機にボランティアとして、7月15日(日)に参加し、この記録を残したものである。

被災状況(福知山市)

京都市災害対策本部 平成30年7月10日発表の「平成30年7月豪雨等の状況について」より抜粋。

被災項目	被災数
死者	0名
負傷者	1名重傷
全壊	2棟
半壊	0棟
一部損壊	2棟
床上浸水	146棟
床下浸水	686棟

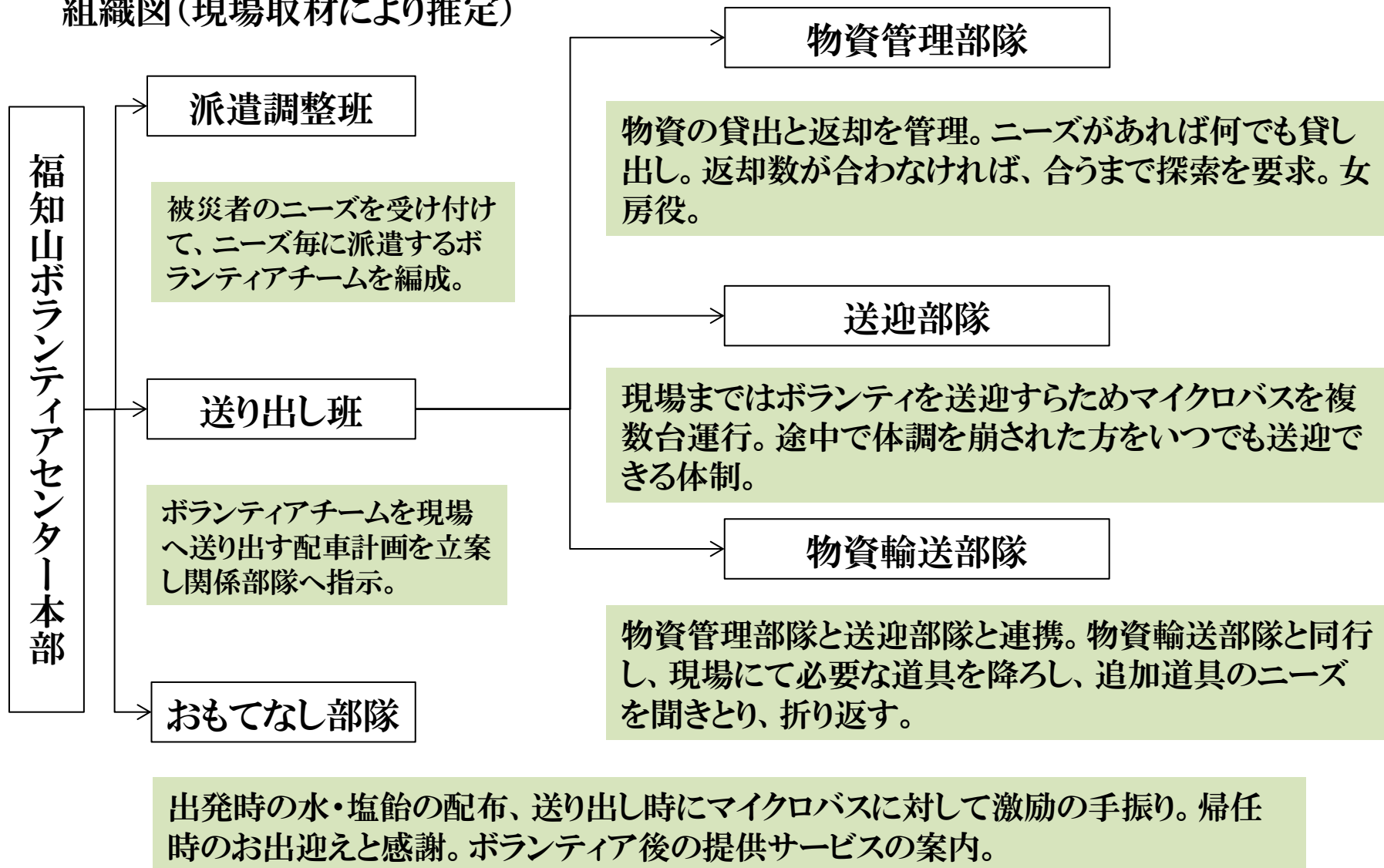
降水量(気象庁アメダス)

福知山市は綾
部に隣接

年月日	曜日	京都府 単位はミリ				
		宮津	綾部	舞鶴	園部	京北
2018/6/28	木	13.0	18.5	11.5	12.0	17.0
2018/6/29	金	24.0	36.5	37.5	47.0	12.0
2018/6/30	土	1.0	2.0	3.0	4.0	32.5
2018/7/1	日	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2018/7/2	月	0.0	0.0	0.0	0.0	12.0
2018/7/3	火	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2018/7/4	水	7.0	19.0	12.0	23.5	16.5
2018/7/5	木	126.0	71.5	156.0	175.0	286.0
2018/7/6	金	181.0	84.0	74.0	91.5	130.5
2018/7/7	土	159.0	220.5	208.5	70.0	48.5
2018/7/8	日	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
2018/7/9	月	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0
2018/7/10	火	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2018/7/11	水	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2018/7/12	木	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2018/7/13	金	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
累計雨量		511.0	452.0	502.5	423.0	560.0

福知山ボランティアセンター

組織図(現場取材により推定)



福知山ボランティアセンター

災害ボランティアへのサービス(現場取材による)

出発前

1. 激励の手振りによる送り出し。
2. 水・塩飴の配布

出発時

1. 現場までのマイクロバスによる送迎
2. 地理不案内な者には助かる。道を探す時間ロスを無くせる。
3. 自走による車の削減に役立つ。
4. チーム同士、お互いにバス内で声掛けができ、チーム作りに役立つ。

帰任時

1. 慰労の出迎えの声掛け。他所では声掛け無しがほとんど。
2. 付着した泥の洗い場を用意。
3. 冷えた牛乳とお茶などの配布。牛乳は美味しく感じられた。
4. 福知山温泉入浴券の配布。
5. マッサージ・鍼灸券の配布。

福地山災害ボランティアセンター



福知山災害ボランティアセンター本部の設営

災害ボランティアセンター



計画立案・指示部隊での計画立案風景。

災害ボランティアセンター



ホワイトボード上にて立案された計画は、後日、反省会に活かすため、書類に転記されている。

ボランティア派遣先



由良川の支流(幅2m)に隣接する浸水被害のお宅の依頼に基づき、派遣。(福知山市字堀森垣)

ボランティア派遣先



依頼主の北側の支流。下流方向を撮影。JR福知山線を潜り、由良川へ注ぐ。支流が氾濫し浸水被害に遭遇。



同じく上流方向。支流の上流より土砂が流出し、支流が埋没。道路と田畑が川と化した。2014年にも同様の被害に遭遇。

ボランティア派遣先



支流を埋めた土砂が支流周辺に土砂山を形成。



近年、上流の山中に土砂ダムが築かれ、岩石の流出は防がれた模様。土砂の流出は止まっていない。

ボランティア派遣先



支流を埋めた土砂の浚渫作業は、道半ばと思われる。



ボランティア派遣先

※家主の撮影許可を得ています。



浸水被害を蒙った依頼者の宅の玄関。人的被害無し。浸水時は家族が2階へ避難。

約180cm(身長との比較で推定)まで浸水。写真の建屋は依頼者邸の納屋。スコップで床上の泥を剥ぎ、デッキブラシで磨き、仕上げに高圧洗浄機にて洗浄し、作業が一段落した様子。

ボランティア派遣先

※家主の撮影許可を得ています。



洗浄後の納屋の中。土砂は粘土質。粒度が細かく、壁の凹凸に浸透した汚れは、高圧洗浄機を使用しても、泥跡が消えない。

床は綺麗そうに見えるが、乾いたら、泥の粉が噴き出す可能性がある。

ボランティア派遣先

※家主の撮影許可を得ています。



目測で約250～300cmの高さの位置の鴨居に残る浸水跡。2014年の水害時のもの。ご当代にて、今回で2回目の被災とのこと。

玄関先の庭。排水溝が詰まり気味。邸内の泥を完全に掻き出すまでは、排水溝の正常化は難しい。

ボランティア派遣先

※家主の撮影許可を得ています。



母屋の床板の下。棧の上下に粘土質の土砂が大量に流入。床板を支える棧の間隔が狭いため、粘土が高く重い泥の掻き出し作業を阻んでいる。

邸内から支流の上流側を臨む。隣接の水田は、土砂で埋まってしまっている。

ボランティア派遣先

※家主の撮影許可を得ています。



母屋の天井にまで、泥水が跳ね飛んでいる。

ボランティア派遣先

※家主の撮影許可を得ています。



随所に残る浸水の爪痕。

夏のボランティアは熱中症ばかりではなく、マムシにも要注意。ボランティア中にマムシと遭遇、参加のプロの猟師によって、……。

私の感想

1. 西日本豪雨において、京都府では7月6日に大雨特別警報が発令され、京都北部地域では由良川水系の氾濫、南部地域では桂川（淀川水系）の氾濫が懸念されていた。
2. 八幡市内には、桂川、宇治川及び木津川の三河川の合流地点がある。今回、宇治川及び木津川の水位が、桂川と比較して、それほど上昇しなかったために、桂川は比較的スムーズに流下することが出来た。そのため、西日本豪雨による被害は京都北部に集中する結果となった。
3. 2017年7月の九州北部豪雨に被災した福岡県朝倉市において流出した土砂である「真砂土」に比較すると、西日本豪雨に被災地の一つの福知山市の土砂は粘土質と重たく、ボランティアにとって体力の消耗が激しい。
4. 水害は同じところで繰り返し発生。水害常襲地域における行政及び住民にとって、水害発生リスクが高いのは周知の事実。水害常襲地における減災努力の速度に比較して、降水量増加傾向があまりにも急速に進展しており、水害対応が遅れをとっているように思われる。
5. 水害慣れした福知山市災害ボランティアセンター（<m()m>）のシステムとおもてなしは一流だと思います。今回のボランティア参加によって、それを体感できた収穫はあった。